

とうこん 新商品「闘根[®] 242」 「ネぢからアップ」のご紹介



雪印種苗（株）
技術研究所 微生物研究グループ
桂川 尚彦

1. はじめに

日本には古くから「苗半作」といった言葉があるように、農業生産において健苗育成は非常に重要な技術です。しかしながら、現実問題としては育苗期間は低温、寡日照など、作物の生育にとって理想的な環境とはいえず、加えて定植直後の天候不順によって活着が順調に進まないということがしばしば起こります。

近年、気候の変動が激しくなってきたり、移植後の速やかな活着のためには、苗の発根力が極めて重要となっています。

弊社では天然素材を活かした資材および肥料の商品開発に取り組んでおり、この度根の生育が旺盛になる新商品「闘根242」および「ネぢからアップ」を発表しましたのでご紹介致します。

2. 「闘根[®] 242」の特長

今まで弊社商品の中では、育苗期には「スノーグローエース」を御愛用いただき、「生育が良くなった」「根張りが良くなった」「活着が良くなった」とお客様の間での評判も非常に高く、おかげさまで20年を超えるロングセラーとなっています。弊社ではさらに優れた商品の開発を目指し、天然素材中から育苗期の健苗育成、移植時の活着促進を助ける資材の開発を進めてまいりました。

その結果、ある種の乳酸菌の培養液が苗の生育を良くする事を発見し、この乳酸菌培養液を濃縮・液肥化するこ

とに成功し、肥料登録を取得することができました。その効果は従来商品の

「スノーグローエース」をはるかに上回っており、各方面での試験結果から良好な成績を得ることができました。

「闘根242」は、闘う（たたかう）根（ね）の意味する通り、育苗期、定植時の不利な環境にも負けず、たくましく伸びていく根をイメージしております。

本商品は乳酸菌培養液を主成分としており、液状複合肥料の登録を取得しています。保証成分量は窒素2.2%、りん酸4.0%、カリ2.0%で、植物由來のアミノ酸を豊富に含んでおり、施用された作物の活力が増し、根の生育が旺盛になります。

とうこん 3. 「闘根[®] 242」の使用方法

「闘根242」の使い方は、育苗初期の子葉展開後と移植前の2回あります。子葉展開後の散布は根量の多い健全な苗を育成するのが目的です。移植2~3日前の散布は活着を良くする事がねらいです。2~3日という期間は「闘根242」の施用後、作物が活力を増し、新しい根を発生させてくるまでのおおよその日数と考えており、根が出始める頃に移植するという作戦です。

(作物、土壌条件、気象条件によりその効果、日数は異なります。2~3日という日数は参考としてください)
以下に、弊社で行った試験の実施例をご紹介します。



1) レタス苗

セルトレイに週1回灌注しました。

写真の通り、地下部、地上部ともに生育が旺盛となっておりました。



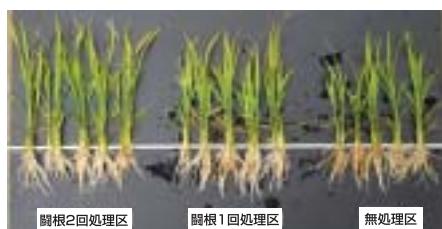
2) イチゴ

灌水チューブで施用して頂きました。根量が明らかに増加しており、地上部の生育も良好でした。



3) 水稻育苗中

育苗トレイをはがした時の比較です。出芽揃い期、移植3日前の2回散布した2回処理区ではポットから出てくる根の量が明らかに多くなっており、活着も良好でした。



4) 水稻移植後

出芽揃い期、移植3日前の2回散布した2回処理区、移植3日前のみ散布した1回処理区の活着後の比較です。新しい根である白い根が多くなっています。最終収量が521(kg/10a)から620(kg/10a)へ19%増加したという試験結果も得られております。

5) ダイズ初期生育

各種農薬と一緒に種子粉衣して使用していただきました。発芽勢に大きな差がつき、最終収量も333(kg/10a)から351(kg/10a)へ5%増加したという試験結果が得られました(図1参照)。また、開花時に葉面散布する「ジャックスパワー」と組み合わせた効果も期待されます。

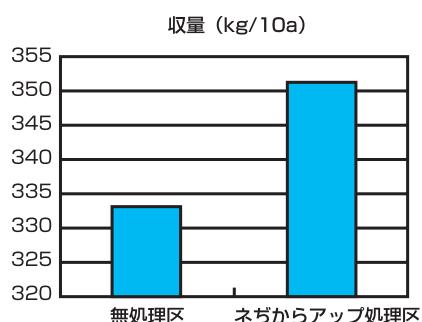


図1. ダイズの収量への効果

一 開根® 242の使い方 一

処理時期	処理方法	ねらい
育苗期	(子葉展開後から) 1週間~10日に1回 灌注※	育苗期の根張り促進 根鉢の形成促進 健苗育成
移植時	移植2~3日前に灌注※ どぶ漬け	活着促進 植え傷み軽減
生育期	株元灌注	生育期間中の 根の生育促進

- 500~1,000倍希釈を基本としてお使い下さい。
- 根回りに十分いきわたる水量で施用してください。

4. 種子粉衣タイプ 「ネチからアップ」の特長

従来播種時に使用する「スノーグローエース種子粉衣タイプ」は、「開根242」の成分を主体として「スノーグローエース」の成分を配合することにより、さらに効果アップさせることに成功しました。新しい種子粉衣タイプ「ネチからアップ」は、各種作物の播種時にご使用いただき、初期生育の向上が期待できます。特に低温、旱魃時など天候不順の時ほど大きな効果が期待できます。また粉衣量は効果アップに伴い、従来の「種子重量の0.5%」から「種子重量の0.3%」に減少させることができました。

尚、「ネチからアップ」は「開根242」と同一の乳酸菌培養液を原料としていますが、種子に粉衣する肥料という法令上の分類がないため、肥料ではなく、植物活力資材となります。

5. さいごに

「開根242」及び「ネチからアップ」を御活用いただき、健苗育成、その後の順調な生育にお役立てください。また、これまで試験に御協力いただきました生産者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後も試験例を増やしていき、優良事例を数多く御紹介できるよう努めてまいりますので御支援のほど宜しくお願い申し上げます。